

学校教育評価表（小・中学校）

学校名

大津市立 瀬田北中学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項 目	評 価 の 観 点		自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	関連するSDGsの 目標(参考)
主体的・対話的で深い学 び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	2	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	2		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	3		
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	3	   
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	3		
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	2	 
	8	体力づくりを推進する運動実践	2		
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2		
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	3	 
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2		
育ちと学びを支える 連 携					
① 家庭・地域との 連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	3	   
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3		
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3		
② 保幼小中の 連 携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	2	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	3		
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2		
組織的体制の 充 実					
① 生徒指導体制の 充 実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	3	   
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	3		
② 特別支援教育の 充 実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	2	   
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2		
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	2		

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	3	3
-------	----	------------	---	---

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.47
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.16

* 各校の学校評価書から上記の1～25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記ください。

* 評価の項目と関連が考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。

評価の基準 3：よく当てはまる(よくできた) 2：やや当てはまる(ほめてきている) 1：あまり当てはまらない(あまりできていない) 0：全く当てはまらない(できなかった)
評価の観点の＊は瀬田北中学校独自の観点

項 目		評 価 の 観 点		自己評価		学校 関係者 評価	自己評価に関する考察(成果と課題)	学校関係者評価に関する意見	今後の学校改善に向けて
				評価	評定		現況	意見・提言等	
1	主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	B	B	B	【成果】 ★「あなたは、他の教員の授業を参観したり、実践を交流したりして、授業改善に努めている。」という問いに82%の教員が肯定的な回答をしている。 ★「学級や学年は楽しくて居心地が良いか」という問いに85%の生徒が肯定的な回答をしている。 【課題】 ○保護者アンケートでは、子どもの学習意欲に関する設問で、肯定的な回答が70%にとどまった。家庭学習の充実につながるような指導の改善に取り組む必要があると考える。	○支持的風土のある学級・学年集団になるよう努力する項目において、生徒、保護者共に高い評価を得ていることから、貴校の取り組みが浸透していることが伺われる。 ○子どもが授業の主体となる授業改善を進めてください。 ○居心地の良い学級・学年経営ができていと思われる。 ○引き続き「わかる」「できた」が実感できる授業づくりのための研修を学校全体で取り組んでいただきたい。 ○学力向上のため、家庭学習を充実させることも必要です。	◆引き続きめあての提示については徹底していく。 ◆振り返りの充実については、教科部会の振り返りおよび次年度への引継ぎ事項として、各教科で視点について話し合ってもらい、改善していく。 ◆来年度も校内研究部と協力しながら授業研究会を開催し、研修を充実させていく。 ◆引き続きベアワークやグループワークを通した授業実践を進めていく。 ◆次年度の取り組みとしてベアワークやグループワークについて、どのように充実させていくかを考えて、校内研究部の次年度テーマを精査していく。 ◆相互授業参観週間の取り組みを次年度も継続していく。
		2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用を含む）	2	B					
		3 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	3	A					
2	道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施	3	A	A	A	【成果】 ★様々な教材を通して、自分の価値観だけでなく、多角的な視点で物事をとらえることの大切さを伝えることができた。 ★保護者参観日において、一斉道徳授業公開を実施し、学校全体で道徳教育の取り組みを共有できた。 ★フリー道徳の時間に、管理職による道徳授業を参観し、指導方法や教材活用の工夫を学ぶ機会を得た。 【課題】 ○道徳的価値がぶつかるような場面の設定ができなかったため、もっと授業改善をしていく必要がある。	○いじめを許さない意識の持ち方も非常に大切な事だと思います。「いじめる側＝悪、いじめられる側＝靖」と決めつけられない気持ちをコミュニケーション（道徳）の中で、見つけ出すことも必要かと思います。 ○生徒も保護者も道徳心の向上を目指した学校の取り組みを評価しているようです。先生方も熱心に取り組まれていることがわかります。 ○生徒の評価を見ても約8割の高い数字となっており、皆の努力が伺われる。 ●人権教育週間を活用して、生きる力を育む人権教育の推進をお願いします。	◆本校では、多様な教材の活用や一斉道徳授業公開、授業参観などを通して、道徳教育の充実を図り、生徒・保護者からも高い評価を得ることができた。一方で、価値観が対立する場面設定や、いじめに関する多面的な理解を促す指導には改善の余地がある。また、人権教育週間をより効果的に活用し、生きる力を育む教育の推進が今後の課題である。これらを踏まえ、次年度も道徳教育の意識を強め、より良い学校づくりを進めていきたい。
		5 ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳課の授業・評価に関する研究	2	B					
		6 保護者等への道徳の授業公開	3	A					
3	体力づくり	7 たくまいし心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	A	B	B	【成果】 ★生徒の学年の特性に応じて、ニュースポーツや体づくり運動など授業内容を工夫できていた。 ★部活動終了5分前に下校の合図を出すことで、運動後に落ち着いて下校することができた。 【課題】 ○怪我が多く、より安全面に配慮した授業づくりが必要である。	○瀬田北中の強みの一つで、さらに頑張ってください。 ○部活動のすばらしい成績を聞き、熱心な指導と生徒の意欲が感じられた。今後も生徒の良さを引き出す指導を期待します。 ○運動部の今年度の活躍は、当事者だけでなく、他の生徒にも体を動かすことへの興味・関心につながったのではないかと思います。	◆全国的に体力低下が課題となっているをしっかり受け止め、低学年時から子どもが活動できる時間の確保、授業のありかたを考え実現する。また、生涯において体を動かすことや、スポーツを楽しむことを意識づけできるようにしていきたい。 ◆引き続き、瀬田北中学校の強みの一つとして、活発な活動を展開していきたい。
		8 体力づくりを推進する運動実践	2	B					
		9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2	B					
4	指導改善 (組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	A	A	A	【成果】 ★前年度と比較して、授業の相互参観が活性化され、授業改善に努めている。 ★教科部会、校務分掌部会、OJTなどを通して教員の資質向上に取り組むことができた。 ★校務の効率化により教育活動の質的向上を図りながら、働き方改革の取組を進めている。 【課題】 ○保護者アンケートでは子どもの家庭学習の取組についての質問について肯定的な回答が50%程度にとどまった。	○教員の相互参観によって、教員の授業改善意識を高めることを引き続き推進してください。 ○授業の「めあて」「ふりかえり」の生徒間での共有を教員で共通化していることは素晴らしい。 ○様々な事案に対応しながらも教育活動の充実に尽力されていたと思う。 ○授業研究や研修のためにも、先生方の多忙化をなくすことが必要だと思います。	◆基礎学力の定着を目指した質問教室は大きく成果を上げていることが実感できているので、この取り組みは継続して行う。 ◆公開授業月間を引き続きは実施し、授業交流を小中の枠を超えて積極的に取り入れていきたい。 ◆カリキュラムマネジメントを意識し、教科を横断的に指導できるよう、年間計画を考えていきたい。また各教科におけるPDCAサイクルをしっかりと確立していきたい。 ◆学校のスリム化を行い、文部科学省ガイドラインである時間外労働時間4.5時間以内を目指すように学校として引き続き取り組んでいく。
		11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3	A					
		12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2	B					
5	① 家庭・地域との連携	13 子育てや家庭教育に対する保護者への積極的な支援	3	A	A	A	【成果】 ★授業参観や部活保護者会を行い、保護者に生徒の様子を見てもらう機会を作った。 ★情報モラル教育、薬物乱用防止教育等を保護者、地域関係者の参観授業とし生徒の様子を見てもらう機会を作った。 ★テル配信を利用し、学校・学年・進路・部活動などの情報を発信した。 ★地域の方に向けても、学校も様子をテルを活用し配信することができた。 ★3年生のプレ懇談会の前に進路説明会を設定し、懇談会の目的を明確にしたうえで、保護者、生徒の進路希望をとることができた。	○tetoruの活用が大変有効な手段として機能しており、全校体制として素晴らしい。ただ、tetoruを見ない保護者、見るゆとりのない保護者への対応は難しい課題。 ○毎月配布される「孝動」等、学校での様子や保護者として考えていくこと等が掲載されていて、とても参考になる。 ○外部から講師を招聘して、様々な総合的な学習の時間を引き続き展開してください。 ○避難訓練だけではなく家庭・地域と連携した防災教育も積極的に進めていけるとよい。	◆引き続き、学校公開を利用し、できるだけ多くの保護者に学校や子どもの様子を見てもらえるように努めていく。 ◆コミュニティ・スクールについて、全教職員への意識向上に努めたいかないといけない。また、保護者にもコミュニティ・スクールの取組を周知していくことが必要である。 ◆各行事の活動記録を写真で残しているので、通信などに変役に立っているので、継続していきたい。 ◆地域Renger活動について地域と協力して広報活動を行い、今後も継続して広く参加を呼びかける。 ◆引き続きホームページやtetoruを活用し、家庭や地域への情報発信に努めていく。
		14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3	A					
		15 防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3	A					
	② 保幼小中の連携	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	B	B	B	【成果】 ★小中連絡会を通して、スムーズに中学校へ入学できるようなサポートを行った。 ★教務、生徒指導主事が地域小学校2校を訪問し、次年度入学生に對し中が校の生活について説明を行うことができた。 ★職場体験学習を受け入れてもらい、生徒の学びを深めることができた。 ★保幼小中の合同研修会を実施することができた。	○小中の教員による参観授業を増やし、相互に授業を見つめる機会を増やしてはどうか。 ○地域Rangerや学校夢づくりプロジェクトを活用して、小中の児童・生徒が交流する機会ができればよいのに。	◆小中の教師の交流のために、各教科の出前授業を実施するなど取り組みを検討していきたい。 ◆生徒指導主事と教務主任が各小学校を訪問し、中学校進学に向けての心構えについて説明できたので、今後も同様の取り組みを継続していきたい。 ◆地域Rangerや学校夢づくりプロジェクトを活用して、小中の児童・生徒が交流する機会を検討していきたい。 ★小学校保護者を対象としたPR見学会や進路相談、SC紹介の場を引き続き設けていく。
		17 校種間の授業公開や合同研修会	3	A					
		18 保幼小の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム作成	2	B					
6	① 生徒指導体制の充実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	A	A	A	【成果】 ★家庭・地域・関係機関との連携では、教育支援センターとのアウトリーチを推進したり、教育支援センターとの情報交換を行ったりした。アウトリーチ、フリースクール、ウイングにつないだ。関係機関と連携し未然防止としてスクリーニングした生徒に対しては支援シートを作成し校内での見立てをするようにした。また、児相、子ども子育て安心課とも緊密な連携ができた。 ★いじめや暴力行為の未然防止の観点から教職員がフロアにいる時間を意識的に多くするようにできた。 ★教務と主事で小学校を訪問し、中学校についての話を小6を対象に行うことで小中連携の充実を図ることができた。 ★小中連携を行いスムーズな受け入れ体制を整えるため小学校保護者を対象としたPR見学会や進路相談、SC紹介の場を設けた。 ★PRをより過しやすい場所にするよう、水曜日4限に交流タイムを設けるなど充実させた。また、生徒の欠欠についてもメモジを活用し、デジタル化したことで、全教員が見られるようになった。 ★教育相談部会の記録、生活部会の記録を校支援の掲示板にあげ、全職員が見られるようにした。 ★本年度は、教育相談部会に、生徒指導主事と養護教諭が参加し、生活部会との連携に努めた。 ★本年度は教育相談主事も生活部会に参加して教育相談部会の内容を共有し、教育相談と生徒指導の連携を密にした。 ★未然防止の出前授業についても、弁護士やSNSの講演など、生徒の課題に応じて計画できた。 【課題】 ○未然防止の出前授業で、日頃の登下校時の様子を見てると、交通安全についても計画したほうがよいと思う。	○学校と家庭と地域が生徒と同じ目線で向き合うことが基本的に大切かと思います。 ○先生方がねばり強く生徒の指導を続けてくださるのに頭が下がる思いです。今後もあきらめることなく指導を続けていってほしい。 ○様々な事案が起きても、その都度、適切に対応されていたと思う。 ○先生方もきめ細かい指導をされていることは高く評価されています。	◆学校、関係機関、地域が連携できるように今後も会議等を行い交流を図る。 ◆教育相談月間を学期に1度行い、生徒の情報を得ている。また、定期的な面談だけではなく、生徒の状況に合わせ、随時面談を行い、生徒との信頼関係作りに努める。 ◆担任を中心に家庭との連携を密にとり、必要に応じて複数の教員で懇談や家庭訪問を行う。 ◆積極的にスクールカウンセラーや医療、関係機関とつなげ連携を深める。また、必要に応じてケース会議を行う。 ◆交通安全の出前授業について計画していきたい。
		20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3	A					
		21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	3	A					
	② 特別支援教育の充実	22 個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	B	B	B	【成果】 ★個別の指導計画について、年度当初に学年の特支担当者から作成の時期と内容についての声かけをした。 ★前年度の最終面談で、次年度の目標を保護者と確認したことで、新しい年度の担任が前期目標を設定がスムーズにできた。 ★個別の指導計画について、各学年ごとのファイルを作り、様式4や5を一括ファシリリングすることで教科担当が生徒についての把握しやすいようにした。 ★巡回相談を適宜活用した。 ★通級指導教室の拠点校と連携をし、巡回相談や個別指導を受けることができた。 【課題】 ○個別の指導計画の活用、小中連携の難しさ、特支担当以外の先生方への周知。教員の研修。	○引き続き取り組みをお願いします。 ○個別の指導計画のもと、保護者と一体となって生徒の成長を支援していただいていることに感謝します。 ○特別支援教育はその子どもを継続して追うことで、支援方法が見出せたり成長を確認できたりする。保幼小中中で連携することに意義があると思うので、今後も校種間でケースを共有していきたい。 ○特別支援教育の視野に立った授業改善をお願いします。 ○特別な支援を必要とする生徒の数も多く、また学校の対応にも限りがあるため、関係機関や医療との連携を積極的に進め、ケース会議等を適宜持ったり、保育園・幼稚園との引き継ぎを確実に行ってください。	◆個別の指導計画を活用するためにも、生徒の見立てや支援の手立てなどを学年部会で検討できる時間を確保する。担任以外の教科担当の話を交流し、生徒理解につなげる。 ◆学級、学年の枠にとらわれず、学校全体で支援体制を組み全員で取り組めるように共通理解を図る。特に、年々個別の支援が必要な生徒も増え対応が多岐にわたることから、特別支援学級を担任任せにせず、学校として支援できる体制作りに努める。 ◆特別支援教育の視野に立った授業改善をさらに行う。 ◆特別な支援を必要とする生徒の数も多く、また学校の対応にも限りがあるため、関係機関や医療との連携を積極的に進め、ケース会議等を適宜持つ。また、小学校との引き継ぎを確実に行う。
		23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2	B					
		24 関係機関と連携した相談体制の充実	2	B					
7	学校満足度	25 児童生徒の学校満足度	3	A	A	A	★生徒アンケートでは「瀬田北中学校の生徒で良かったと思うか」の質問に93.4%の生徒が、「あてはまる」「少しあてはまる」といった肯定的な回答している。 ★保護者アンケートでも「子どもは、瀬田北中学校へ楽しく通っている」の質問に対して90%の保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答されている。	○学校満足度が高くてすばらしい。「長い3年間、たかが3年間」楽しく思い出に残る学校生活を送ってほしい。 ○学校が楽しいと感じていることが何よりです。今後も生徒のためご尽力くださりますようよろしくお願いいたします。 ○高い満足度は、教師集団が一丸となって、学校運営を行った成果だと思う。 ○生徒も保護者も大変満足度が高いことに満足せず、満足していない生徒等に注目してほしい。	★学校満足度は高いが、引き続き、学力向上や「わかる」「できた」が実感できる授業づくりに努めていく。学力定着のためには授業と関連する効果的な家庭学習の充実にも取り組んでいきたい。 ★満足度の低い生徒がいることを心にとめ、すべての生徒をささえてこそ瀬田北中であるという意識できめ細かい指導に取り組んでいきたい。

R7 R6

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.47	2.26
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.16	2.09